

# 古楽器アンサンブル アントネッロ演奏会

## 1部

### チューダー王朝時代の英国宮廷音楽

もしも私が少女だったら ..... 作者不詳  
 涙のバヴァース ..... ジョン・ダウランド  
 見て、私の素敵な宝物を ..... トマス・モーリー  
 グリーンスリーヴス ..... 作者不詳  
 マクシミリアン1世時代のドイツ宮廷音楽  
 愛しのエルスライン ..... ルートヴィヒ・ゼンフル  
 五月には ..... ルートヴィヒ・ゼンフル  
 フランスの宮廷音楽  
 一体どうしたんだい? ..... クローダン・ド・セルミジ  
 千々の悲しみ ..... ジョスカン・デ・ブレ  
 このさわやかな五月に ..... クレマン・ジャヌカン  
 ああ貴様、私は時を無駄に過ごしているのですか? ..... ピエール・セルトン

## 2部

### イタリアの教会ソナタ及び宮廷舞踏

ソナタ第2番(主よ、憐れみ給え) ..... ジョヴァンニ・バティスタ・フィンタナ  
 スパニヨレッタ ..... フアブリツィオ・カローネ  
 バレット(甘美なそよ風) ..... フアブリツィオ・カローネ  
 スペインの劇場及び宮廷音楽  
 ラス・フォリアス ..... アントニオ・マルティン・イ・コール  
 お顔を洗いましょう ..... ミゲル・デ・フェンリャーナ  
 戦争のティエント ..... セバスティアン・アギレーラ・デ・エルディア  
 カナリオス(それは思わないで、メンギーリヤ) ..... オセ・マリン  
 フォリアス ..... アンドレア・ファルコニエリ  
 ラ・チャコーナ(素敵人生) ..... フアン・アラニエス

冬



1998年12月22日(火)6:45PM  
 会場: 浜松市教育文化会館  
 主催: 浜松音楽友の会

## プロフィール

### 濱田芳道(フルネット&リコーダー)

相明学園大学リコーダー科卒業後、スイス政府給費留学生としてバーゼル・スコラ・カントールムに留学。コンチェルト、アンサンブルで数多くの演奏者と共に演。映画「利休」、アニメ「耳をすませば」「もののけ姫」の音楽を担当。NHKの大河ドラマ「信長」「秀吉」に出演するなど、知られざるバロック以前の音楽や楽器を広めるべく活動を行っている。米国ヒストリック・プラス・ソサイティー会員。合唱団(ラ・ヴォーチュ・オルフィカ)指揮者。アントネッロ主宰。

### 野々下由香里(ソプラノ)

東京芸術大学卒業、同大学院修了後、ローカリー財團給費留学生として国立サン・モール音楽院卒業及びオペラ科を金メダルを得て卒業、パリ・エコール・ノルマルにて演奏家資格を取得。パリU・F・A・M国際声楽コンクールを始めとする、数多くのコンクール入賞を果たし、ヨーロッパでリサイタル、オペラ出演等活躍。コンセールC会員。現在上野学園大学非常勤講師。

### 石川かおり(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

山梨大学教育学部在学中、大橋敏成氏のもとにヴィオラ・ダ・ガンバを始める。同大学卒業後、バーゼル・スコラ・カントールムに留学。エリシコ・ガッティ、ウイリアム・トンゴワの各氏と共に演する等、通奏低音奏者およびソリストとして活躍中。山梨大学教育学部講師。

### 西山まりえ(チェンバロ&ハープ)

東京音楽大学ピアノ科を卒業後、同大学院研究科チェンバロ科を卒業。第7回山梨古楽コンクール・チェンバロ部門第3位入賞。その後、学内給費留学生としてバーゼル・スコラ・カントールムに留学。第11回山梨古楽コンクール・チェンバロ部門第1位、上原賞及び楊木藏の町音楽祭賞受賞。

### 永田平八(リュート)

AN・ジャズ・スクールを特待生で修了。フランス国立ストラスブルグ音楽院を金メダルを受賞して卒業。リュート及びテオルボ奏者としてソロ、アンサンブルで活躍する一方、劇工房「ライミング」の音楽監督、また数多くの舞台音楽を手掛けている。ファボーラ・イン・ムジカ主宰、古楽セミナーを企画。

### 市瀬陽子(古典舞踊)

立教大学及び東京芸術大学卒業。15~18世紀ヨーロッパの宮廷舞踊、音楽劇場について研究。特にフランス・オペラ草創期の作品による舞台を中心に手掛けている。自らダンサーとして活躍する一方、舞台製作、バロックダンス講師として活躍。東京芸術大学、東京ミュージック&ミディアアーツ尚美、聖徳大学音楽文化学科講師。

### 鶴見未穂子(古典舞踊)

1973年井上バレエ学園に入学。在学中よりバレエ団公演、外部公演に多数出演。クラシック・バレエを中心として古典舞踊からコンテンポラリーダンスまで幅広く活躍。1997年スウェーデン王立バレエにて研修。「くるみ割り人形」「ジゼル」「眠れる森の美女」などに出演。(財)井上バレエ団ソリスト、教師。



古楽器アンサンブル  
アントネッロ演奏会

BAROQUE ENSEMBLE  
ANTHONELLO CONCERT

今回のプログラムの作曲家は馴染みのない方ばかりなので、時代背景とともに紹介いたします。曲目の解説は演奏の中でお話していただきます。

●ジョン・ダウランド (1563～1626ロンドン没)

エリザベス1世の時代を代表するイギリス屈指のリュート奏者・作曲家である。イギリスはもとよりヨーロッパ中にその名が広く知られていた。「涙のバヴァース」はもともとは独唱曲であったが、後にファン・エイクにより「笛の楽園」という曲集の中に、リコーダー独奏曲としてとりあげられた名作である。

●トマス・モーリー (1557～1602ロンドン没)

イギリスの作曲家・オルガニスト。イタリア語のマドリガーレや英語のマドリガルが流行した、エリザベス1世の時代に、最も影響力のある理論家として活躍した。彼はイタリア音楽をイギリスに紹介し、マドリガルの流行を開花させた、その中心的な音楽家であった。

●ルートヴィヒ・ゼンフル (1486～1543ミュンヘン没)

主にドイツで活躍したスイスの作曲家。宗教改革期のドイツ語圏における、フランドル楽派の流れをくむドイツのモテットとリートの第一人者。

●クローダン・ド・セルミジ (1490～1562パリ没)

フランス・ルネサンス期の代表的なシャンソン作曲家であり、また宗教音楽家であった。彼の作品は叙情的で繊細で、その多くが器楽曲に編曲されたり、コントラファクトゥム（声楽曲において、音楽を基本的に変えることなく、歌詞を別な歌詞にかえる）として改作されている。

●ジョスカン・デ・プレ (1440～1521没)

北フランスの作曲家。ルネサンス期の代表的な作曲家の人である。彼はミサ曲やモテットの他、シャンソンなどの世俗曲と若干の器楽曲を書いているが、その作品はヨーロッパ全域に知れ渡り、当時の作曲家たちの尊敬を集めていた。

●クレマン・ジャヌカン (1485～1558パリ没)

フランスの作曲家。当時のパリ風シャンソンの作曲家としては最も優れた、多作な作曲家であった。彼はより大衆的で、機知に富んだ曲想と、標題音楽的な作品によって名声を得た。

●ピエール・セルトン (?～1572パリ没)

フランスの作曲家。彼の作品は、シャンソンやモテットに代表され、その初期の作品には、明らかにセルミジとジャヌカンの影響がみられるが、後期には、ラッスなどと共に、より開放的な、新しいシャンソンの様式を創り出していった。

●ジョヴァンニ・バティ스타・フォンタナ (?～1630頃パドヴァ没)

イタリアの作曲家、ヴァイオリニスト。現存する楽曲は1641年に出版されたソナタ集のみであるが、ソナタの初期の発展において主導的な人物であった。特にソロ・ソナタにおいてはマリニと共に重要な作曲家である。

●ファブリツィオ・カローネ (1527～1605以降没)

イタリアの舞踊教師。16世紀後半の代表的な舞踊のステップ及び舞踊音楽の手引書の作者である。これらの手引書には、基本的なステップ集や作法に関する重要な規則に加え、彼自信の作による100種類以上の舞踊が收められている。レパートリーの大部分を占める「バレット」は、それぞれに複雑な振り付けを持ち、音楽も舞踊のために特別に作曲、編曲されている。

●アントニオ・マルティン・イ・コール (?～1734以降、マドリード没)

スペイン・カスティーリャ出身の作曲家・オルガニスト。彼の作品のほとんどはオルガン曲である。「フォリア」はもともと15世紀のポルトガルに生まれ、スペインで大流行した旋律・歌つきの舞曲である。

●ミゲル・デ・フェンリヤーナ (16世紀初頭マドリード近郊生～1568年以降没)

スペインのビウエラ奏者・作曲家。1553年にフェリーベ2世の宮廷に奉職して、王妃エリザベートに室内奏者として仕えた。「お顔を洗いましょう」は民族的な宗教歌。一見おもしろおかしい歌詞だが、実際には「魂を洗う、清める」という、れっきとした宗教的意味合いがある。

●セバスティアン・アギレーラ・デ・エルディア (1565年頃～1627サラゴーサ没)

スペインの作曲家・オルガニスト。1585年にウエスカ大聖堂のオルガニストに任命され、以降この地で過ごす。1603年にサラゴーサ大聖堂の司教兼主席オルガニストに就任した。

●ホセ・マリン (1618or19～1699マドリード没)

バロック期スペインの歌曲作者として名を残す。ギター伴奏の形による世俗歌曲を数多く作曲した。そこには、時代のものである優美さと共に、スペインらしい情熱、哀愁、あるいは愛嬌といったものも充分感じ取れる。「そうは思いなさるな、メンギーリヤ」は、詩らしき“愛想づかし”の歌である。

●アンドレア・ファルコニエリ (1585or86～1656ナボリ没)

イタリアの作曲家・リュート奏者。彼はナボリに生まれナボリで没したがその生涯は常に各地を渡り歩くものであった。彼は歌曲作品を多く書いたが現存するものは少ない。いくつかは、魅力的な旋律と興味深い形式を持っている。また器楽作品は描写的な題名を持つものが多い。

●ファン・アラニエス (カタルーニャ生～1649年以降没)

スペインの作曲家で、短期間イタリアに在住した。アルカラ・デ・エナーレスで学び、司祭となる。1624年ローマで出版された曲集の最後に付されたシャコンヌは、スペインの作曲家による声楽のためのシャコンヌとしては最初に刊行されたものである。